



## “三方よし”の職場づくり

第3回

### 改善活動のつながりから、まちづくりの共創へ

地方分権改革、地方創生の推進が求められている今、長野県須坂市でも「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本目標を、総合計画の重点プロジェクトとして位置づけ、その達成に向けた各種施策を市民との「共創」により進めている。

その中で私は2017年度、行政改革の担当課係長から商業観光課の課長補佐に異動し、行政改革担当の経験をいかして改善活動を始めた。手始めにポスター掲示を自ら見直した。すると職場の皆も一緒にどんどん整理を始め、ポスターやパンフレットだけでなく職場全体の整理整頓が進んだ。

改善運動の小さな達成感を味わったことで、さらに取組みが広がり、その後職員が自主的に「封筒送付作業負担軽減」「事務用品保管表示」「文書回覧ボードスリム化」など、自ら考えた改善を実践し始めた。改善活動のやり甲斐は、成し遂げた自分の自信や勇気となり、改善に取り組む同僚や上司への感謝、そして改善の結果を生み出す仲間の一体感と誇りにもつながっていくようだ。

商業観光課は本庁舎とは別の須坂駅前ビルにあり、同フロアには産業連携開発課と外部機関の観光協会が入居している。改善活動は、次第に職場が隣り合うこの2つの部署にも広がっていった。

ここは産業振興や観光のポスター・パンフレットが数多くある場所で、今まで貼りっ放し、置きっ放しだった。それが、お互いに意識して声を掛け合い、最新のものが掲示されるようになった。きっかけは、ポスターをはがしている時に、隣の課の職員が、「破れたままでも、いつまで貼っておけばいいものか気になっていた」とつぶやいたことだ。「何かおかしい」という思いも表に見え始めると、行動が促される。そうした意識を行動に移す職員が、このフロアが増えてきた。

折しも産業振興の動きの中で、町の活性化策として観光協会や商店会連合会、関係機関と行政が共創して「まちの駅」や「緑の一鉢運動」など交流の場づくりの取組みが昨年度から始まっていた。そこで、まずはその存在を知ってもらうために、共同で「まちの駅マップ」を作成することにした。マップに掲載されたお店・施設に行くと、市民の方が町の案内をしてくれるのである。

改善活動によって仕事を良くしたいという思いは、職場を越えてまちをより良くしていこうという思いにつながり、共にまちを創る行動に進展していく実感が徐々にできるようになってきた。

(長野県須坂市職員／寺沢隆宏)

※本コラムは「自治体改善マネジメント研究会」のメンバーがリレー形式で執筆します。